シニア | Senior

文化生活部　kurashi@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3020 FAX:096-361-3290

毎週火曜日　掲載

老いと介護の舞台にて 2

菅原 直樹

職員役とおばあさん役

イラスト・あさののい

即興で演じ疑似体験

認知症介護に演技は役に立つ。この発見を多くの人々と共有するためにどうすればいいのか。僕は演劇ワークショップを通じて、多くの人々に実際に演技を体験してもらおうと考えた。

ワークショップでは、参加者にこんなやりとりを即興で演じてもらう。介護職員役の「ご飯の時間ですよ」という声かけに、「主人と出かける用がある」と答えるおばあさん。認知機能の障害によって、亡き夫が生きていると思い込んでいる設定だ。

介護職員役には2通りの関わり方をしてもらう。まずは「ご主人は亡くなってますよ。それよりもご飯です」という、認知症の人の言動を否定する関わり。自分の言動を否定された上に相手の都合を押し付けられると反発したくなるようで、おばあさん役は「いや、主人は生きています。何言ってるんですか」と言い返す。こうなると、お互い意固地になっていく。

次は、肯定する関わり。「あぁ、それは楽しみですね。そしたら出かける準備をしましょうか」。現実ではありえないことでも演技で受け止める。その上で介護職員役が「ご主人が来られる前にご飯はいかがですか」と声かけをしてみる。おばあさん役は「これだけ私の言うことを聞いてくれるのなら、この人の言うことも聞いてみようかと」と感想を語る。

実際に演じることで、認知症の人の気持ちを疑似体験できる。そこから認知症の人とのよりよい関わりが見えてくる。

演劇という表現形式の強みは、俳優と観客が時間と空間を共有して共に楽しむこと。認知症の人の言動を否定したり、失敗を責めたりするのではなく、介護者が演技をすることによって、認知症の人といまを楽しむことができる。劇には介護を豊かにする恵が詰まっている。

（劇団「オイホッケシ」座長）

VR旅行 海外ひとっ飛び

専用ゴーグルで非日常体験

まるで別の場所にいるかのような非日常体験が、手軽に味わえる仮想現実（VR）。その特性を生かした〝旅行体験〟に注目が集まっている。

東京・池袋にある「FIRST AIRLINES」は、フランスやハワイなど8地域の海外旅行が2時間で疑似体験できる。飛行機の機内を模した室内には、ファーストクラス用のシートが並び、VRを活用した旅先ごとのツアー体験や、それぞれをイメージした機内食が提供される。

「実際の旅より短い時間で濃い体験ができる」と代表の阿部宏晃さん。客の半数が50歳以上だといい、「時間やお金、体力などの理由で、海外旅行に行けないという方々が利用してくれるのではないか」と分析する。

外出が難しい高齢者に思い出の地や観光地を巡る「仮想旅行」を体験してもらう活動も注目を集める。元介護職で東京大先端科学技術研究センター稲見・檜山研究室の登嶋健太さんは、介護施設の入居者らに楽しんでもらいながら、VR体験が心や身体に与える影響を研究している。

「海の中に入ってる！」。埼玉県草加市の介護付き有料老人ホームで4月に行われた体験会では、思いがけない光景に驚いた入居者らはゴーグルの先を指さし、車いす上で体を左右に大きく動かす。体験後は、VRで見た景色を元にサポートスタッフとの会話も弾む。

「VRは時間と空間を超えられる。テレビと違い、見る側が体を動かしながら、能動的に見ることができ、コミュニケーションにつながる」と登嶋さん。今は元気なシニアがカメラマンや体験会のサポートスタッフとして参加できる仕組みも構築し、事業化を進める。

旅行会社も活用に乗り出す。大手のエイチ・アイ・エス（HIS）は全国計158店で、ホテルの客室や眺望を事前に確認できるVRを導入している。実際の旅行とのギャップが少なくなり、クレームも減ったという。

「ANAセールス」は専用のカメラとゴーグルのレンタルサービスを始めた。旅先で撮ったVR画像を、自宅などに残った人に見てもらいながら、ビデオ通話できる。モニター体験では、仕事や急病で旅行に行けなくなった家族や仲間にゴーグルを渡し、旅先で〝一緒に〟飲み会や会話をして楽しんだ利用者も。旅行の楽しみ方がますます広がりそうだ。

手軽に… 楽しみ方広がる

介護付き有料老人ホームでVRを体験する入居者ら。そばにいるサポートスタッフと見えている映像の話で盛り上がる＝埼玉県草加市

「FIRST AIRLINES」でVR体験を楽しむ利用者＝東京都豊島区